

## 資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 民主的共同社会システム ② 克服すべき三つの問題 2

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

### 民主的共同社会システム ② 克服すべき三つの問題 2

#### 2. 民主社会主義ないし社会民主主義の旧来のあり方の克服

伝統的な社会主義が克服しなければならないことは次の点です。

1. 市場経済システムの技術革新への適応能力、生産性を向上させる能力を過小評価し、情報伝達装置としての市場システムの役割も理解できなかったこと。
2. 政策の提案にグローバルな視点と対応を欠いたこと。グローバルな問題に取り組むのではなく、志を同じくする政党との国境を越えての連帯でしかなかったこと。
3. 経済の活性化、新しい産業政策に対する有効的な提案が打ち出せなかったこと。
4. 環境保護政策を敵視しないまでも、より積極的な対応をせず、地球規模の環境問題に対する対策も建前では一応の主張をするが、具体的な実践活動を見れば、冷淡であることが明らかであったこと。
5. 福祉社会建設に対する批判の増大も新自由主義を中心とする側から、ここ20～30年の論調の特徴だったが、それら批判に対する有効な対策を打てないで来たこと。
6. 公務員組織は市場原理に従わないので、サービスの低下は避けられないが、それらの批判に対しても従来の社会主義は明確な答えを出せなかったこと。
7. あれほど人権問題に熱心だった人たちが、北朝鮮に拉致された日本人の人権には冷淡だったことや、阪神淡路大震災のとき、社会主義政党の首班が「なにしろ朝早くて、初めての経験でしたので」と言って、家が倒壊している被災地の現場まで来て命令を待っていた自衛隊へ、派遣へのゴーサインを出さずに、多くの人々が家の中に閉じ込められ、その人々を火災から救出することができなくて、多くの犠牲者を出してしまったこと等、実際の危機管理に対しても能力がなかったこと。
8. 自分たちの組織・支持基盤の構造変化を見逃してきたこと。

福祉国家の目的は二つあります。ひとつはより公平な社会をつくること、もう一つは、国民の生涯にわたる生活を保障することです。戦後の福祉国家構想は、働く者の多数を占めるブルーカラーの労働者によって支持されてきました。1980年まではこの人たちが選挙の際の主要な支持基盤でありました。その支持基盤もブルーカラーの急激な減少、企画職や専門社員の増大、派遣社員やパート労働者等の非正規社員の増大、労働市場への女性の進出、無党派層の拡大で、政党支持のパターンを不安定なものにしました。

従来のDemocratic Socialism（民主社会主義）が依存してきたブルーカラーの人々の存在が少しずつ薄くなり、過去のアイデンティティ（存在価値）ではなく、社会的・文化的多様化が進んでいることを前提にした新しいアイデンティティを模索していく必要がありますが、それらに対する対応もいまだ見出せていません。

イギリス、ドイツ、イタリア、オーストラリア、ギリシャ、北欧で政権を担当してきましたが、これまでの経済的成果、成長の重視から、あらたな自己表現、意義ある仕事への願望と仕事に対する考え方の変化に気づきませんでした。

これからの民主的共同社会システムは、グローバル化、新しいライフスタイル、効率的な政治、環境問題、新しい産業の創造に関心を持ち、これまでの伝統的なDemocratic Socialismが関心を持たなかった問題に対して、積極的に主張して実践していかなければなりません。

民主的共同社会システム③ ⇒

- ▶ サイトマップ
- ▶ このサイトについて
- ▶ 個人情報保護の取組みについて

TOP page	資料室	イベント情報	講師を探す
関連リンク			

傾聴

語り部スキル

▶ キーワード検索はこちら